

富士河口湖町立 教育センターだより

No. 5



平成30年6月12日 文責 渡辺富美夫

大切な 小さな一歩

町立教育センター
教育相談活動

町立教育センターにおける主な活動の1つとして教育相談がありますが、「学校にいけない子どもたちの居場所」「再登校に向けエネルギーを充填する場」、「進級進学に向け学力を保证する場」としての役割を果たしてきています。

現在は、数名が来室しています。主な活動は、新聞スクラップの作成や教科書の学習。絵・ペーパークラフト・パズル・手芸などの創作活動。DVD鑑賞や卓球・バトミントンなどの体育活動、校外学習など。それぞれの子どもたちにとってパワーを蓄えられる充実した時間を考えています。また、交流活動として、来室している子どもたちが一緒に活動する場面も作っています。先日は、ふわふわホットケーキ作りをしました。役割を分担したり、協力し合ったりして作ったホットケーキを食べながら、いろいろな話をしてゆったりとした時間を過ごすことができました。また、花壇の一角をお借りして、野菜作りもしています。今年は、子どもたちと相談して、キュウリ、トマト、ジャガイモ、サツマイモ、小玉スイカを作っています。夏以降の収穫とその作物を使った料理作りが楽しみです。



このような活動を通して、少しでも教育センターの役割が果たせるよう努めています。また、担任、養護教諭、管理職の先生などとも話をする機会を持ち、連携を密に取っています。当センターにおいて、担任が受け持ちの子と初めて顔を合わすということもあり、センターの持つ役割の重要さを感じました。さらには、SSW（スクールソーシャルワーカー）、スクールカウンセラー、町の子育て支援課などと連携をとっています。4月から新しく替わったSSWの渡辺博子先生にも何度も来室していただき、子どもたちにセンターとは違ったアプローチをしていただくなどして連携した相談活動を行ってきています。

センター相談員より



私たち相談員の一番の願いは、教育センターから学校へと自分の気持ちが向くようになることです。今は、人や社会とつながるためにエネルギーをたくさん充電して、毎日元気に活動してほしいと願っています。たとえその歩みが小さなものであっても、現状に寄り添う中で、一歩一歩前に進めるようにサポートしていきたいと思っています。



スクールソーシャルワーカー 渡辺博子先生より

相談の場で子ども・ご家族の声を直接お聴きすることで、その人が抱えてきた沢山の傷つき・苦しさを知ります。過去を変えることはできないけれど、傷ついた体験こそが伝えてくれるメッセージを共に受け取り、今や未来はいくらでも築いていけるという希望が持てるような関わりが大切だと感じます。傷つける人もいますが、この自分を信じ、共に悩み歩み、応援してくれる人々もいる！そう思ってもらえる支援をさせて頂きたいと思っています。

当センターには、渡辺政孝教育長をはじめ、先生方、関係機関の方々、OBの先生方など多くの方が訪れます。多くの方々に支えられて、活動できていることを感じます。今後も、子どもたちの歩みを少しでもサポートできる教育センター（教育支援室）でありたいです。